



## 診療情報は『宝物』

患者さんの診療のため、医療の質の向上のために重要な診療情報管理。今回は、診療情報管理士の役割について、経営企画課 行正政通さんに説明していただきます。

はじめまして、昨年4月より診療情報管理士として着任しました。

診療情報管理士の役割は、診療情報の物的管理だけでなく、質的な管理など多岐にわたっています。このため、実際、診療情報管理は多くの医療スタッフの協力により成り立っています。

単に診療情報といっても様々です。カルテの記載内容、エックス線写真、心電図、他の病院さんからの紹介状、そして、病院の多くのシステムに存在する電子的情報など、患者さんの診療に関わる情報、またそこから得ることができる情報全てに及びます。

診療情報の管理は、患者さんが安心して医療を受けていただく上で、なくてはならないことです。3つのキーワードで説明してみます。



### ① 情報の迅速な把握

日々、多くの患者さんの診療が行われますが、これは言い換えれば、膨大な診療情報が蓄積されているということです。

患者さんの診療は、医療スタッフが、患者さんの過去にかかられた病気、その時の治療内容などを把握して始まります。膨大な情報から、その患者さんの情報を迅速に用意できるよう管理されています。このことは、時に、人命にも関わる重要な役割です。



### ② 情報の監査と開示

医療は、複数の職種が連携して進めるチームプレーです。患者さんの状態をあるスタッフが記録することで、他の複数のスタッフがその情報を共有し、個々の役割を果たします。診療情報は、言わば、伝言板のようなものです。

記録する情報が正確かつ、誰にでも見て理解できるものでなければ、医療事故につながりかねません。記録内容を監査し、問題に対応することで医療の質の向上につながります。

また、このことは、患者さんからの診療情報の開示申請に対しても大切であり、開示への十分な対応が可能になります。



### ③ 情報の利用と保護

蓄積された膨大な診療情報を集計することで、例えば、医療スタッフの研究に役立てることや、地域の疾病状況の分析を行うことができます。こうした情報の二次的利用は、患者さんへの診療に対して改善が図られるなど、効果的に還元されます。

また、診療情報は個人情報のものであるため、第三者に漏れるようなことがないように取り扱いには最大限の注意を払っています。

診療情報は、病院にとっても患者さんにとっても宝物です。その管理が十分できるよう一生懸命がんばります。よろしくお願いいたします。

行正



## 受診のご案内

### ≫初めて受診される患者さん

平日の午前8時30分から、新患受付で以下の手順で受け付けています。

- ① 新患受付前の記入台にある受診申込書に必要事項を記入してください。
- ② 受診申込書と保険証を受付に提出してください。
- ③ 他の医療機関からの紹介状・公的な受給者証をお持ちの方は、保険証と一緒に受付に提出してください。
- ④ 受け付けが終了しましたら、受付票を持って、受診される診療科で問診表に記入のうえ、診察をお待ちください。

※どの診療科を受診したらよいか迷うときには、総合案内にご相談ください。

### ≫予約のある患者さん

- ① 受付前にある再来受付機に診察券を入れてください。
- ② 受付機から出てくる受付票を、受診される診療科または検査室に提出してください。なお、受付を早く済まされても、診察は予約時間からとなります。

※地域連携室を通して受診される方は、そのまま総合案内にお越しください。

### ≫予約のない患者さん

- ① 前回の受診から1年未満の場合は、受付前にある再来受付機に診察券を入れてください。
- ② 再来受付機から出てくる受付票を、受診される診療科に提出してください。

※前回の受診から1年以上経過している場合は、初めての受診と同じ扱いになります。

### ≫注意事項

\*保険証を持参されない場合は、原則として自費の取り扱いになります。保険証を持参していただいた時点で精算しますので、会計窓口にお知らせください。

\*診察券は大切にお持ちください。紛失等により再発行する場合には、手数料（210円）をいただくことになります。

\*南外来駐車場及び東外来駐車場は、午後8時30分以降は閉鎖します。



## お悩み相談室

お悩み相談室の第2回目は、眼科です。今回は、「目」に関する悩みについて**眼科 吉田 和之 部長**に教えていただきます。

**Q.** 目が赤くなった原因がわかりません。

**A.** 「目が赤くなった。」時には、「**結膜充血**」と「**結膜下出血**」の2種類があります。

「**充血**」とは…結膜（しろめ）の血管が太くなっている状態で、キズができたりばい菌がはいったりして炎症がおこっている場合が多く、治療が必要な場合が多い。

「**出血**」とは…結膜（しろめ）の血管がきれて血がたまっている状態で、ケガや手術直後にはよく見られるが、特に思い当たる原因がなく血管がきれることも多い。また、血が固まりにくくなる薬（ワーファリンなど）を飲んでいる人は『出血』を起こしやすい。

これで眼科を受診される方は、「痛くも痒くもないが、鏡を見たら真っ赤になっていた」と言われる方が多い。結膜の血管はとても細いので、出血しても短い時間で止まり、出血量もわずか。

とても目立つので心配される方が多いですが、2週間ほどで自然に吸収されます。ほとんど治療の必要はないのですが、何回も繰り返す場合は検査を受けた方が良いでしょう。

（「充血」との違いは、赤くなっている所に血管が見えなくなっていること。）